

平成30年度決算のポイント



千葉開府 Road to
since 1126 900

 千葉市

平成 3 0 年度決算の状況	1
平成 3 0 年度決算の特徴	2
主な財政指標の推移	6

平成30年度決算の状況

概況

【会計別歳入歳出決算額及び実質収支】

(単位:百万円)

会 計		歳入決算額	歳出決算額	形式収支	翌年度へ繰越すべき財源	実質収支
一般会計		433,261	429,944	3,317	871	2,446
特別会計(14会計)		345,994	343,751	2,243	64	2,179
会 計		収入額	支出額	形式収支	当年度純損益(税抜)	累積欠損金(税抜)
企業会計 (3会計)	収益的収支	54,708	53,233	1,475	1,012	
	病院	21,243	21,680	△ 437	△ 438	△ 8,532
	資本的収支	18,292	30,385	△ 12,093		
全会計合計		852,254	857,312			

※各会計毎に表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

※企業会計の資本的収支の不足額は、内部留保資金等に対応した。

平成30年度決算の特徴①

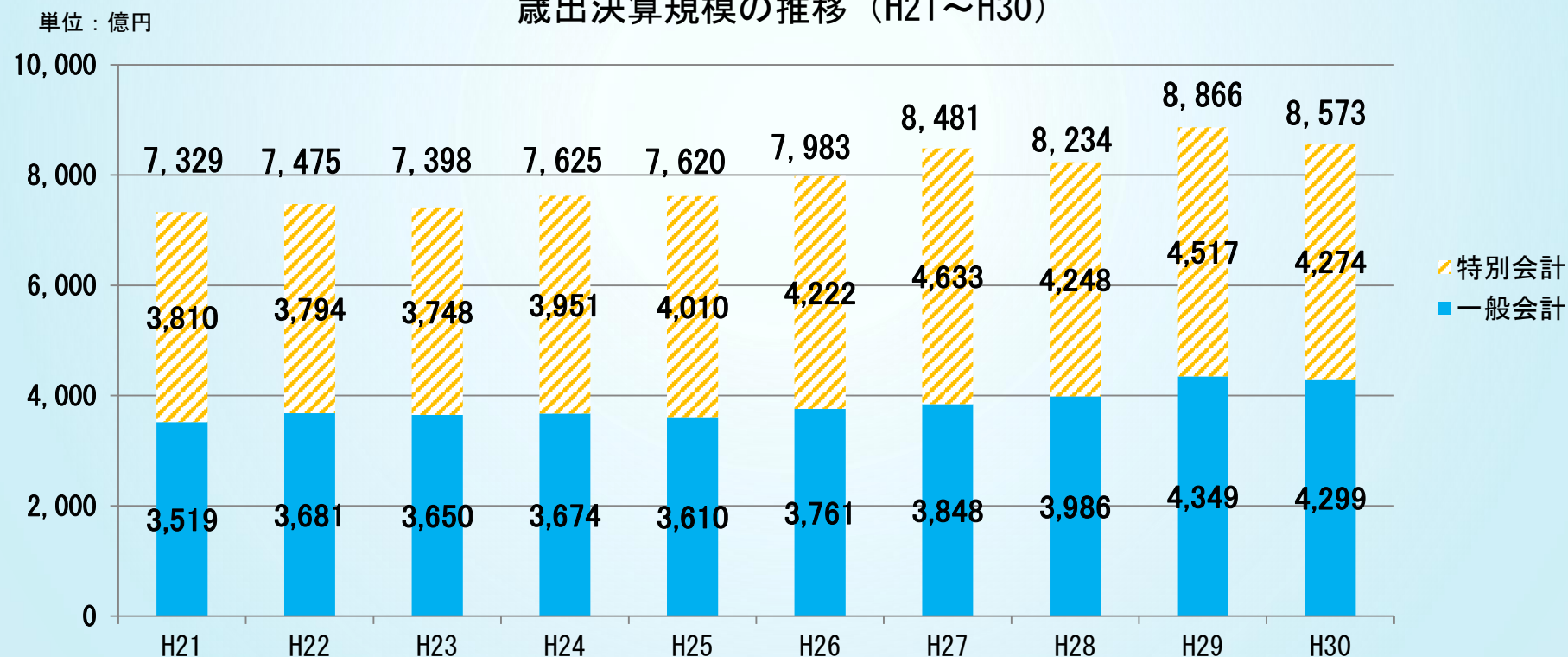
決算規模

○一般会計の決算規模は、

歳入 4,333億円（対前年度比 55億円減 1.3%減）

歳出 4,299億円（対前年度比 50億円減 1.1%減）

歳出決算規模の推移（H21～H30）



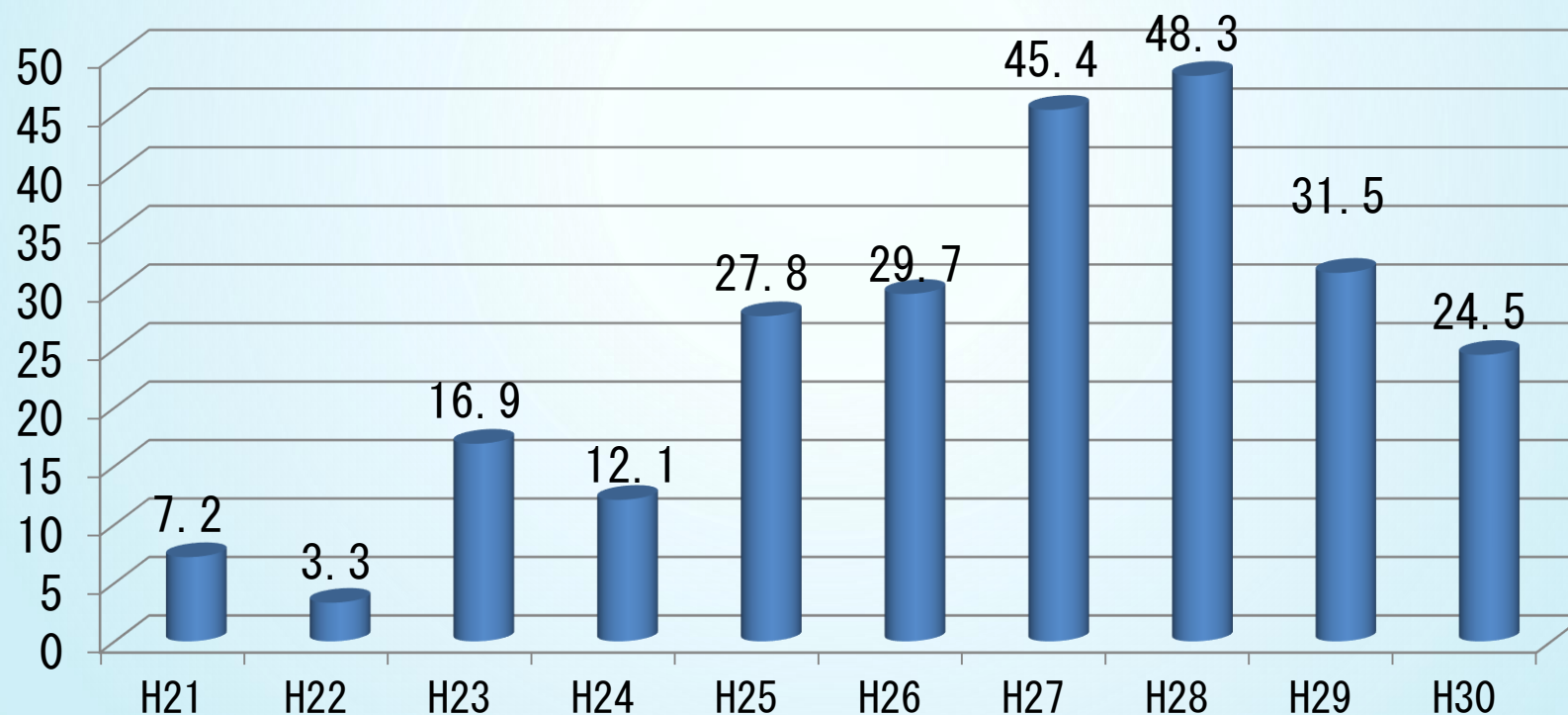
平成30年度決算の特徴②

実質収支の確保

○一般会計では、市税や地方消費税交付金の増収などにより、24億円の実質収支（黒字）を確保

一般会計実質収支の推移（H21～H30）

単位：億円



平成30年度決算の特徴③

主要債務総額の削減

○現段階で、令和3年度までの削減目標を超える結果

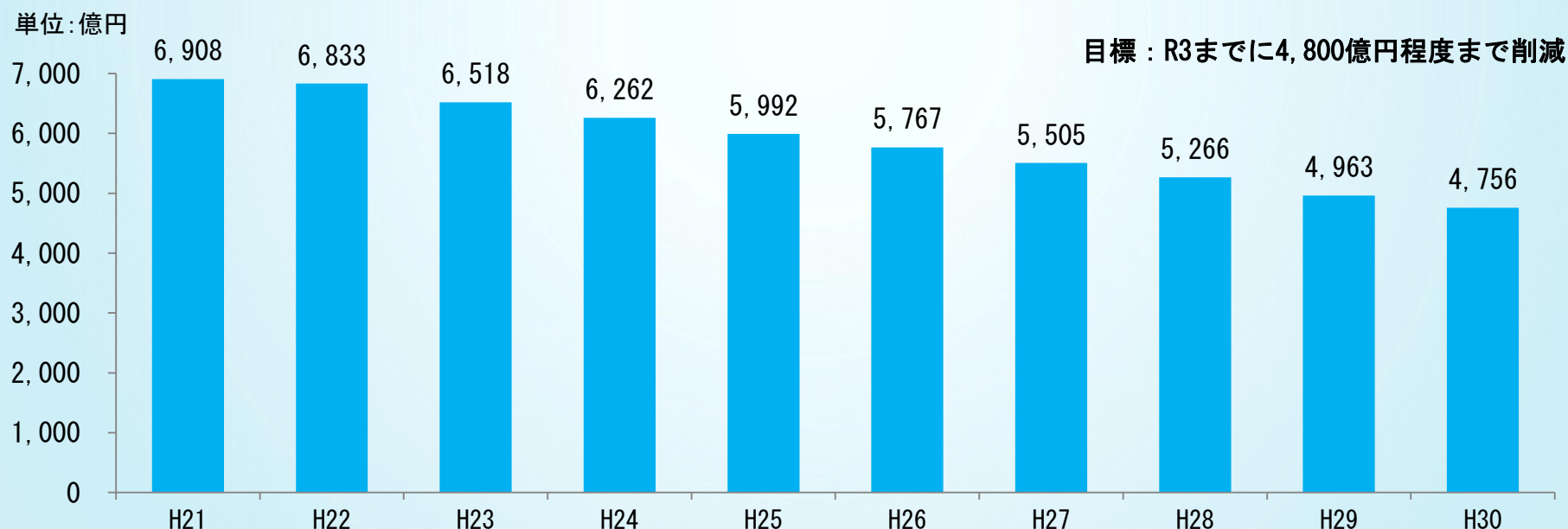
第3期財政健全化プラン目標(令和3年度) 4,800億円程度まで削減

平成30年度取組結果 4,756億円まで削減

【主要債務総額とは】

市の財政に大きな影響を与える4つの債務

- ・建設事業債等残高(普通会計)
- ・債務負担行為支出予定額(普通会計・建設事業分)
- ・基金借入金残高
- ・国民健康保険事業累積赤字額

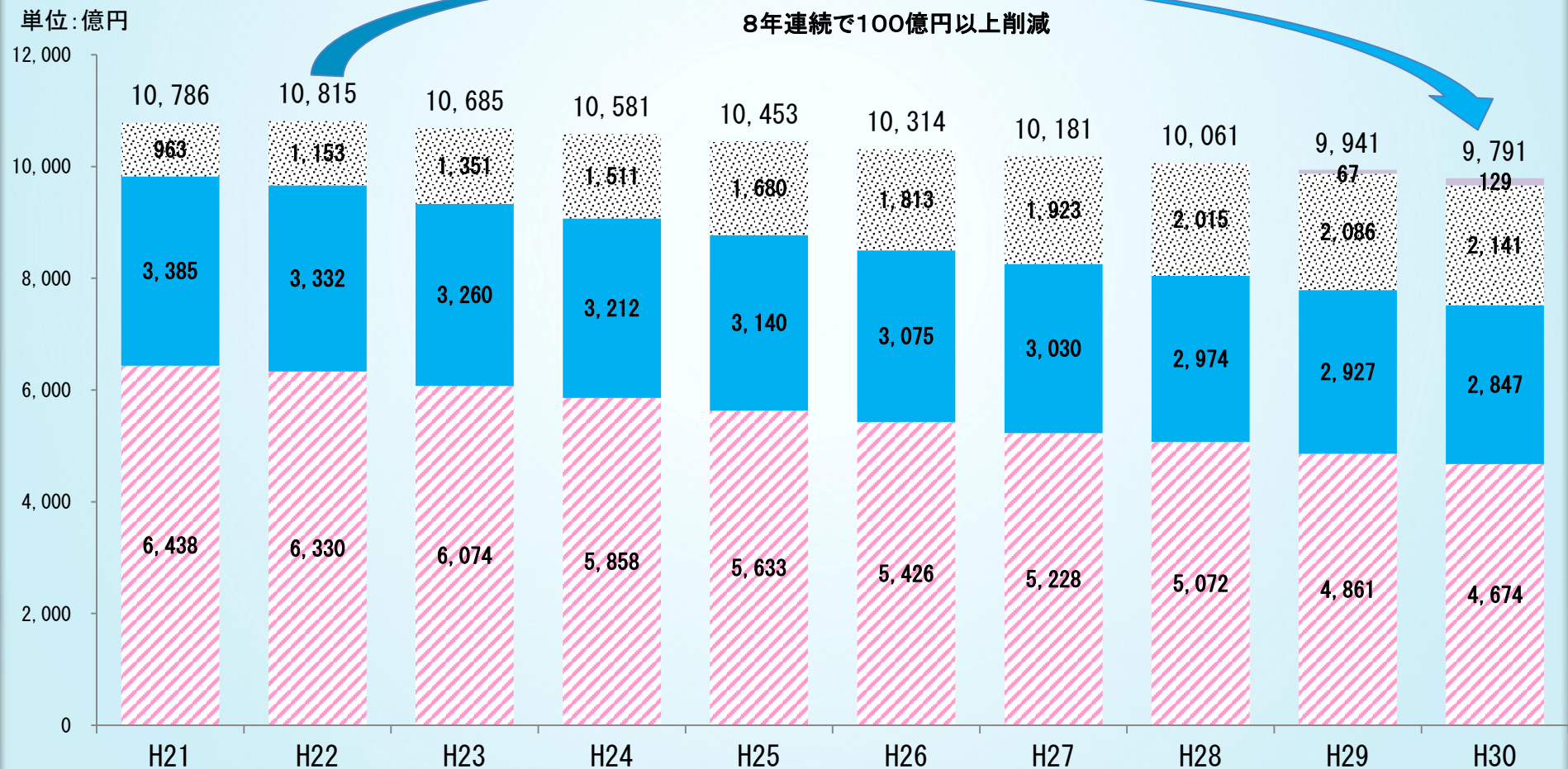


平成30年度決算の特徴④

市債残高の適正化

○対前年度比150億円の削減
8年連続で100億円以上の削減を達成

● 普通会計分（臨時財政対策債除く） ■ 公営企業分 ● 臨時財政対策債（県費分除く） ■ 臨時財政対策債（県費分）



主な財政指標の推移①

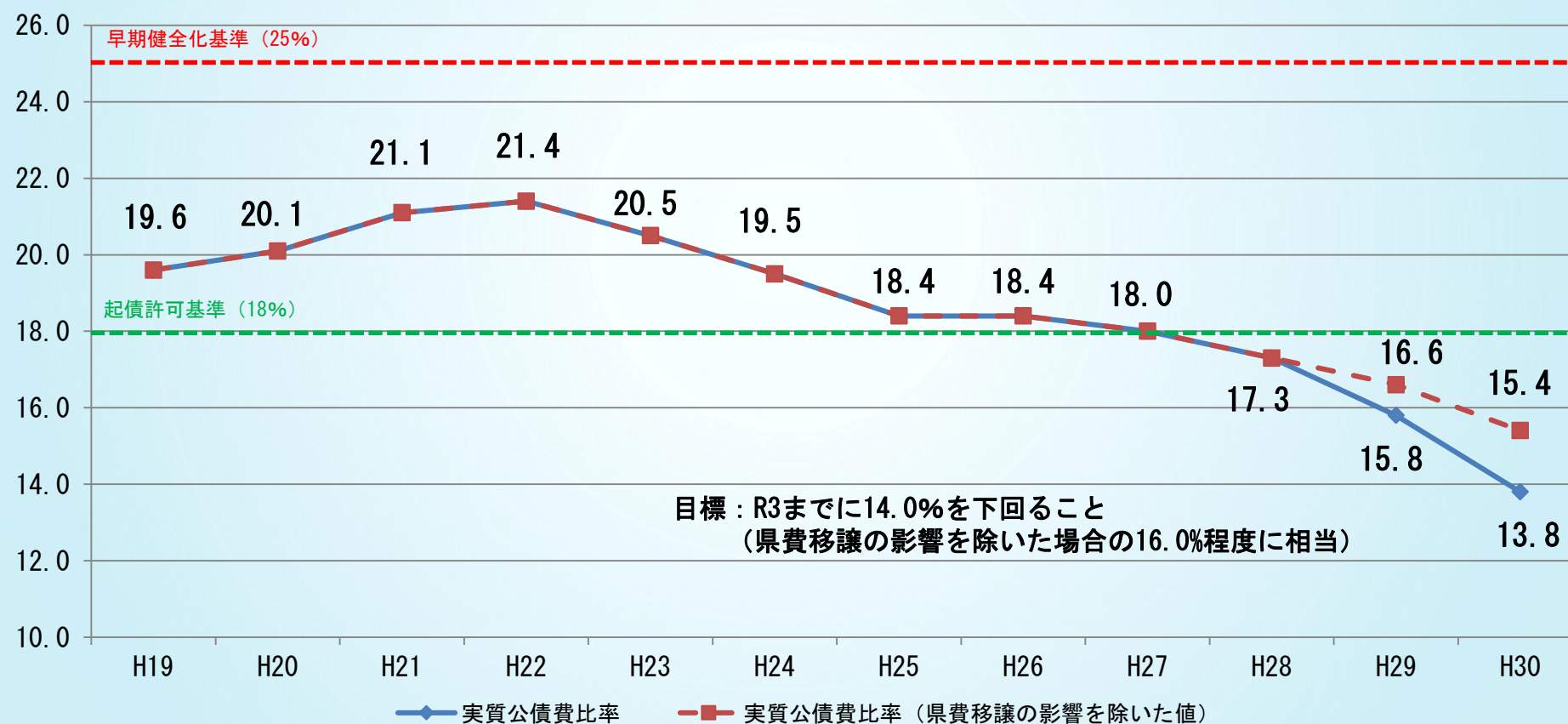
実質公債費比率

（公債費等（地方債の元利償還金等）の標準財政規模に対する割合）

○実質公債費比率は、引き続き改善（13.8%、対前年度比△2.0P）

（※県費移譲の影響を除くと15.4%（対前年度比△1.2P））

単位：%



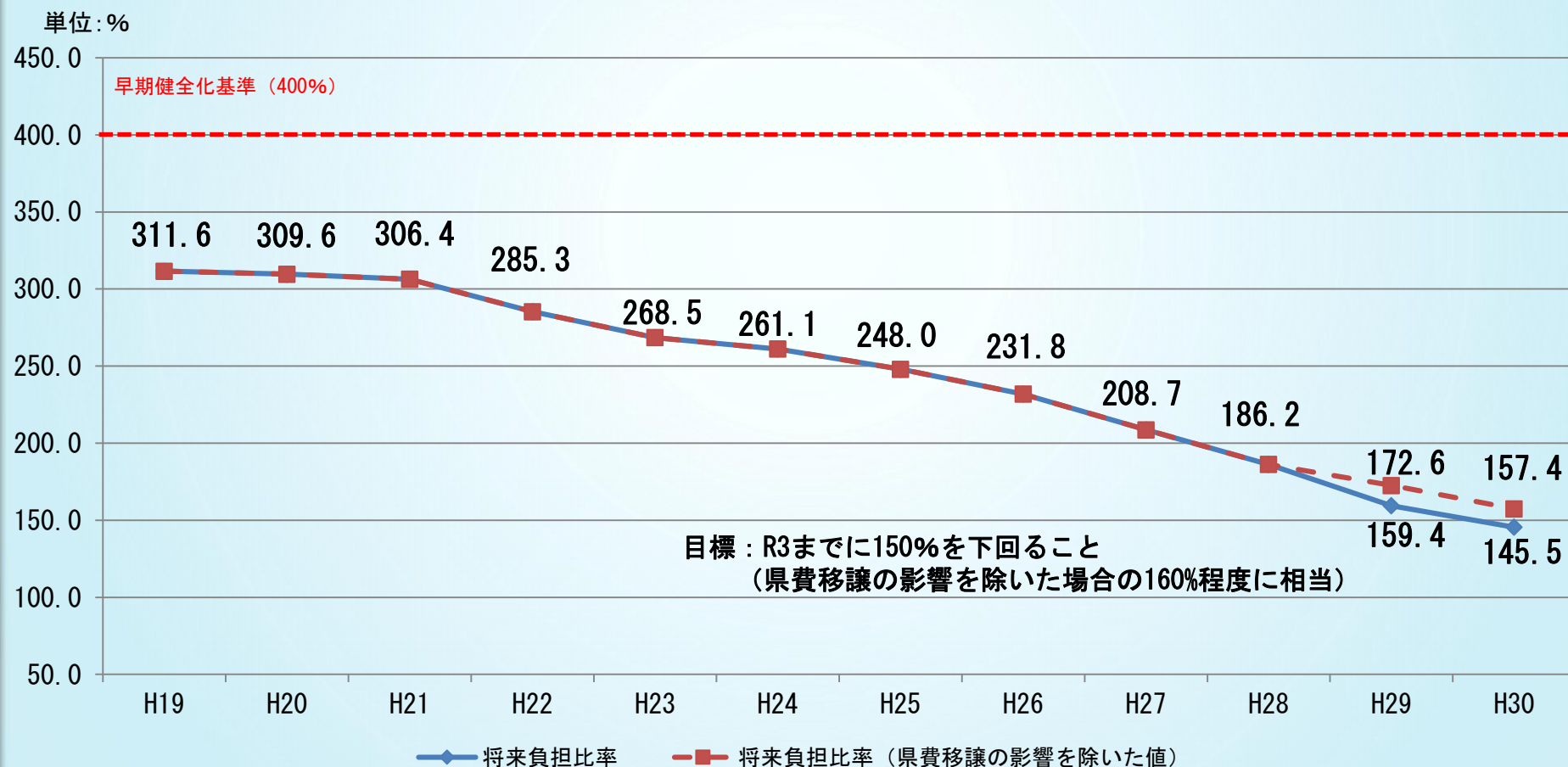
主な財政指標の推移②

将来負担比率

（将来負担債務の標準財政規模に対する割合）

○将来負担比率は、引き続き改善（145.5%、対前年度比△13.9P）

（※県費移譲の影響を除くと157.4%（対前年度比△15.2P））

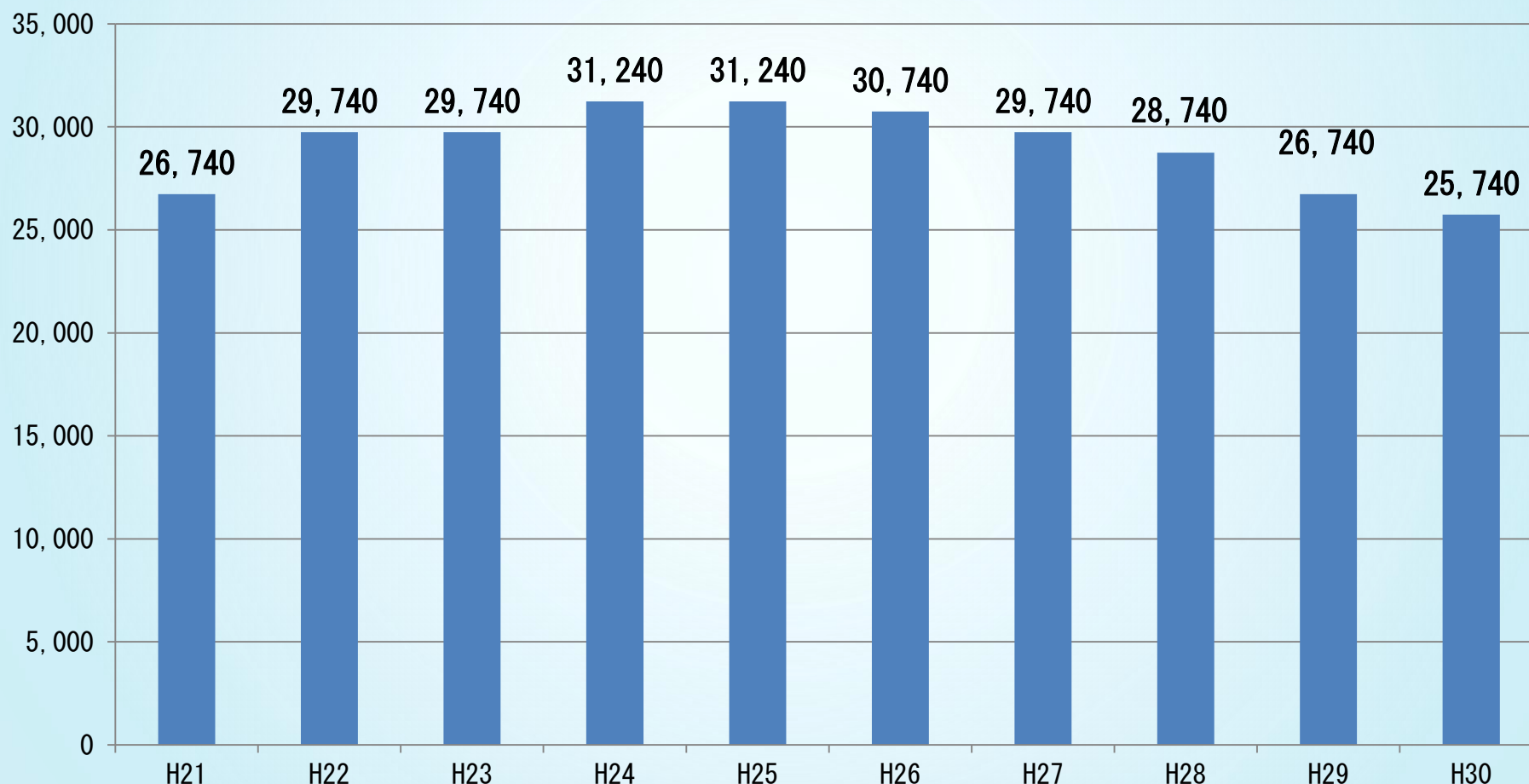


主な財政指標の推移③

基金借入残高の削減

○主要債務総額のうち、一般会計の収支均衡を図るために実施している基金借入の残高は、着実に削減（対前年比△10億円）

単位：百万円

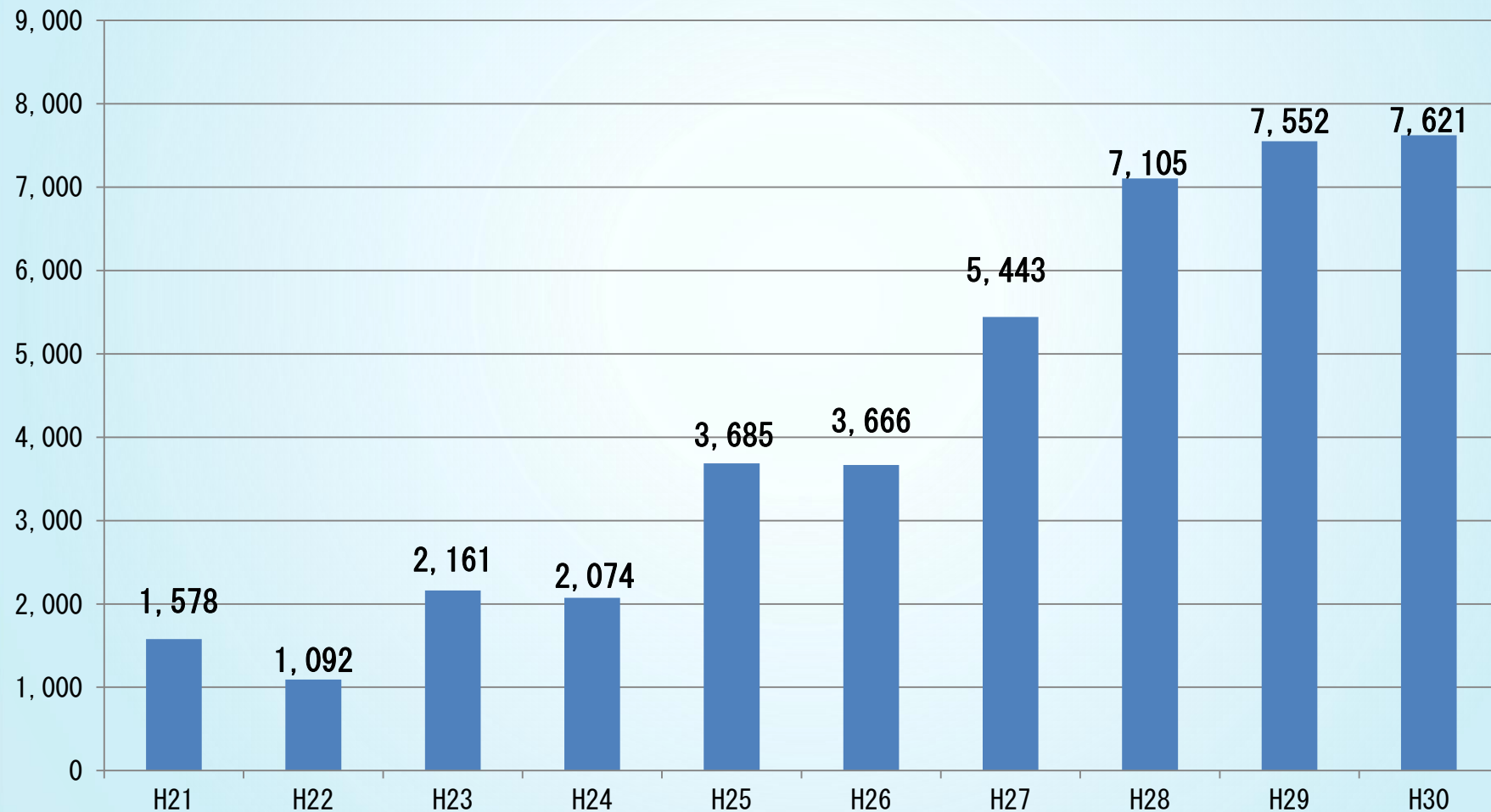


主な財政指標の推移④

財政調整基金

○年度間の財源調整を行うための「財政調整基金」残高は着実に回復傾向

単位:百万円



主な財政指標の推移⑤

資金不足比率

（公営企業ごとの資金の不足額の事業規模に対する割合）

○病院事業において、医業収支の改善などにより、3年ぶりに資金不足が解消

○対象となる6会計でいずれも資金不足比率の発生はなし

（単位：％）

区分	法適用			法非適用		
	病院事業	下水道事業	水道事業	農業集落排水事業	地方卸売市場事業	動物公園事業
平成30年度	－	－	－	－	－	－
平成29年度	0.9	－	－	－	－	－
経営健全化基準	20.0					